

審議会等議事概要

第1回 滝川市交通安全対策会議 議事概要

日 時	平成22年12月20日（月曜日）午後1時～午後2時30分
開催場所	滝川市役所8階 大会議室
出席者	田村 弘会長、山谷幸雄委員、亀井信吾委員、見野則幸委員、珍田伸郎委員、小田真人委員、吉井裕視委員、西村 孝委員、橘 弘恭委員、若山重樹委員、大平正一委員、小林 恵委員、川嶋慎之輔特別委員、葛原哲敏特別委員、久保田勝利特別委員、高木敏行特別委員、長谷川雅美特別委員、渡邊恭久特別委員、西田裕康特別委員、松原 章特別委員、渡邊 修特別委員、片岡喜恵子特別委員、岩田兼一特別委員、西井勝明特別委員、黒井 巖特別委員、関藤龍也特別委員、中垣地香子特別委員、堺田八重特別委員 事務局等：伊藤克之市民生活部次長、深瀬文彦同部くらし支援課課長、樋郡真澄同課主幹、大本神威同課副主幹、押切祐子同課主任主事
議 事	委嘱状交付 滝川市交通安全対策会議委員13名及び特別委員16名の委嘱 ・市長から平成22年12月20日発令の辞令書の交付が行われた。 1 開 会 ・伊藤市民生活部次長の司会により進行 2 市長あいさつ ・お忙しい中、関係団体の皆さんに委員・特別委員の委嘱のお引き受けいただきお礼申し上げたい。 ・来年7月までの間、6回の会議を開いて新しい意見をいただきたい。 ・対策計画の現状と成果について、後程報告をさせていただきます。第8次計画はちゃんとした、建て直しをしなければならない。 ・大切なことは3つある。 ・1つ目は、教育・啓蒙（Education）をしっかりとすること。 ・2つ目は、条例を作る、そして取り締まること。 ・法律を作ることは、国・道がしっかりとやるとともに、市が必要な条例を作ることだが、今までしていなかった。「法律に自治体は関係ない」ではない。放置自転車についても、必要な条例を作り、取り締まるといったことも必要。皆さんと議論してまいりたいと思う。 ・3つ目は、自治体としてやれることは何かということ。歩道が狭いので車道を走らせる、自治体の財力がないから歩道整備できない、という問題ではない。交通安全に必要な施設、例えばガードレールを設置・整備はしっかりとしていく。

- ・それぞれの専門のご意見をよろしくお願ひしたい。

3 議 事

(1) 市町村交通安全計画について

- ・くらし支援課深瀬課長から資料1に基づき、交通安全対策基本法の関係条文及び市町村交通安全計画を作成し、その実施を推進するため、市町村交通安全対策会議を置く旨を説明。

(2) 第8次滝川市交通安全計画の策定について

① 第7次滝川市交通安全計画の現状及び成果について

- ・くらし支援課樋郡主幹から資料2に基づき、滝川市の現状（交通社会構成三要素（人・交通機関・交通環境）、三本柱（地域や関係機関などの連携・交通安全対策・交通事故被害者救済（支援））、滝川市の交通安全教育実施件数及び人数 等）について説明。

② 滝川市の交通事故状況について

- ・くらし支援課樋郡主幹から資料3に基づき、滝川市交通事故状況（事故全体からみた主要要素の比率）について説明。

③ 第8次計画策定にあたり課題と目標について

- ・くらし支援課樋郡主幹から資料4に基づき、今までの「自転車駐輪会議」を「自転車対策会議」とし、条例制定の検討を含め、自転車対策を検討していく旨及び市内2か所ほどのモデル地区を設定し、検討を進めていきたい旨説明。

④ 第8次滝川市交通安全計画スケジュールについて

- ・くらし支援課樋郡主幹から資料5に基づき、1月中に関係機関、団体等にアンケートを実施し、2月にアンケート結果をまとめる旨、その後、新計画原案ができた時点で市民のご意見も募集する旨、第5回対策会議（6月予定）で国・道の計画との整合性を見ながら、道の計画等に横並びではなく、滝川市にあった計画ができればと考えている旨説明。

委員）資料2の2ページ目の高齢者教育人数が少ないのではないかな？

樋郡主幹）資料は11月末現在で作成しており、冬季の高齢者講習会等の数字が含まれていない。

会長）今年の事故の傾向は、どのような状況か。

委員）特に変わらない。

会長）交差点の事故は排雪問題と関係があるかもしれないが、出会い頭事故は排雪に力を入れれば減るのか、とは言え、市道はここから函館までの距離と同じ距離がある。特に問題のある箇所はどこなのか、分析してみる必要がある。

A4用紙1枚で、第7次計画の成果と課題を次回の会議前にお渡しすること

	にする。それを基に、皆さんからご意見をいただきたい。 特別委員) 自転車対自動車の事故の分析表はあるか。あるとよい。自転車側は学生なのか、一般なのか。 会長) もう少し事故分析が必要。次回の会議まで。 特別委員) 冬道の事故、夏の道の事故それぞれの時間帯を知りたい。 委員) 自転車に乗る人の事故で、年齢層の傾向は特にはない。全年齢の事故がある。 また、まだ今冬雪が少なく、雪山はないので、出会い頭事故は少ない傾向にある。 会長) 会長として申し上げにくいですが、「全道一安全なまち」という目標は、定めない方がいい。目標とその成果分析が難しいし、もう少し具体的な目標を設定したい。 事故をゼロに近づける目標という意味であることはいいと思うが。 皆さんの意見を取り入れながら、現計画の手法も取り入れながら、目標等を定めていきたい。 交通安全教育とは、ただ、子供達を集めて、講話教育をするだけではない気がする。 スケジュールに基づくと、アンケートを実施し、その結果、来年7月には新計画を定めるという事務局提案のスケジュール以外でも、計画づくりの方法はあると思うが、この事務局提案の方法でよいのか。 出席委員・特別委員) 了承済み。 会長) 交通安全計画は、うまく機能した例として、何十年も前にあった事例が2件ある。 「地域地区計画」というもので、高知県高知市の例と、大阪府豊中市の例。 高知県高知市の例は、小学校区ごと、連合町内会ごとに地区分析を行った。 カーブミラー設置など市のやるべきこと、町内のやることを明確にして、1枚ずつ計画書を作りあげた。 一方、大阪府豊中市は、高度成長する時代、住民議論をして、都市計画として進めた。参考までに例として挙げさせてもらった。 次回どのような会議になるのか、本格的な議論になると思うので、皆さんのご協力をよろしくお願いしたい。 4 その他 ・特になし 5 閉 会
会議資料	会議次第 会議委員・特別委員名簿 資料1 市町村交通安全計画について 資料2 第7次滝川市交通安全計画の現状及び成果について

	資料 3 滝川市の交通事故状況について 資料 4 第 8 次計画策定にあたり課題と目標について 資料 5 第 8 次滝川市交通安全計画スケジュールについて
--	---